

梅若会定式能

能花月 会田昇



能富士太鼓

松山隆之
松山絢美



能大会

山中迺晶
角当直隆



平成三十年六月十七日(日)

午後一時開演(正午開場)

梅若能楽学院会館

指定席 八、〇〇〇円

自由席 七、〇〇〇円

能
花
月
会田昇

工藤 和哉
大倉源次郎
栲原 崇志
栗林 祐輔

後見 鷹尾 維教
梅若長左衛門
地詔 山中 景晶
山崎 直隆
角当 梅若 松山 隆雄
行雄

狂言
膏
葉
煉

野村 萬香
中村 修一

能
富士太鼓

村瀬 提
柿原 弘和
正昭 熊本俊太郎

能
大
会

生舞
通
草子
洗盛

後見 小田切康陽
赤瀬 雅則
地詔 梅若 維一
山崎 友正
井上 和幸
療治 梅若 会田
梅若 友正
会田 梅津千代司
彰 彰 彰 彰

松山 隆雄
川口 晃平
地詔 河本 望
鷹尾 維教
井上 和幸
和幸 和幸

《休憩十分予定》

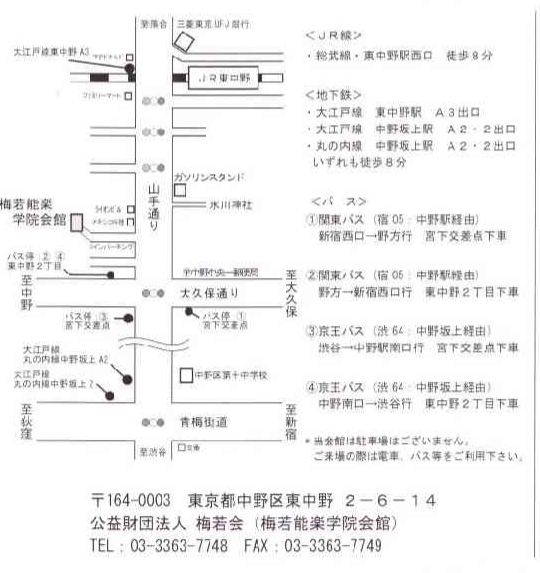
角当 直隆
山中 逆晶
館田 博博
間 深田 博治
大倉慶乃助
清水 和音
鷹尾 雄紀
小寺真佐人
竹市 学

後見 山崎 正道
地詔 鷹尾 雄紀
土田 英貴
小田切 雄紀
丸平 幸
鷹尾 幸
彰 彰

「花月」七歳の我が子が行方不明になり出家した僧が、旅の途中で花月という名を耳にする。花月は清水寺の花の下で流行の小唄を謡い、花を散らす僧を弓矢を使って戯れ、清水寺の縁起などを曲舞に舞う。これを見た旅僧は花月が行方不明になった我が子と気づき、花月に話を聞くと七歳のとき天狗にさらわれ諸国を巡る身の上と聞かされる。親子を確信した旅僧は花月に父親だと名をわらへるにさうわてから山々を回った思い出を舞い示す。やがて花月は寺をあどに父と共に仏道修業の旅に出る。

「富士太鼓」内裏の菅絃会の太鼓の役をめぐり、住吉の富士は天王寺の浅間に殺害される。夫を奪われ上落した妻と娘は官人より事の次第を聞かされ、形見の鳥衣と舞衣を受取って悲嘆にくれる。形見の妻を身につけた妻は、夫の死の原因となった太鼓を激しく打つ。娘にも父の敵だと打たれ、富士の霊が乗り移ったが如く狂風雨の妻は舞衣を舞い、激しく太鼓を打つ。やがて狼み心も晴れ、鳥兜と舞衣を脱ぎ捨てて伴吉に帰らんとする妻は、太鼓を見つめこれこそがじ天の形見であったと気づくのである。

「大会」比叡口の僧正のもとへ山伏姿の者が訪ねてくる。自分がかつて都で僧正に命を助けられたのでその恩を返すために来た、望みがあれば救えようと言う。この者は京都・東北院のあたりで殺されたかげた望みで、僧正が慈悲・福と引き換えに引き取り助けた。実はこの僧は天狗の化身であった。僧正は望みはないがかねてから霊鷲山での祝尊の説法が拝みたいと言う。山伏はたやすいことだが、決して本心から信心を起こすなと言われ、残り姿を消す。すると空から妙音が響き、祝尊の大法会が僧正の目前にあり、信心を起こし合掌してしまふ。するとたちまち山中が震動し、今まで祝尊と見えた天狗は変わってゆくの瞬間に帝釈天が天降り、天狗を懲らしめ、恐れおののらした天狗は逃げ去ってゆく。



【観能チケットについて】

- 自由席 7,000円 指定席 8,000円 学生席 3,000円
- 賛助会員券(定式能)および自由席をお持ちの方は1,000円プラスで正面のご希望のお席を確保いたします。公演1週間前までにお電話にてご予約下さい。
準賛助会員券(梅流会)をお持ちの方は1,000円プラスで自由席にてご観能可能です。
- チケットはお電話、またはファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望座席をお書きの上お申し込み下さい。TEL 03-3363-7748 FAX 03-3363-7749)
なお梅若会ブログにも受け付けております。
(パソコン: <http://umewakanoh.exblog.jp/> 携帯: <http://mblog.excite.co.jp/user/umewakanoh/>)
詳しくはお電話にてお問い合わせ頂くか梅若会ブログをご覧ください。
- 都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。
*ロビーにて軽食、コーヒー、ケーキ等の販売がございます。皆様ご利用下さい。



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会